

# 合併協議会だより

発行・編集 / 相模原・津久井地域合併協議会 〒229-0036 神奈川県相模原市富士見6-6-23 けやき会館3階 ☎042-769-8206 ホームページ <http://www.st-gappei.jp>

## 市町村合併シンポジウムを開催

本年4月1日に相模原市、城山町、津久井町及び相模湖町の1市3町により設立した「相模原・津久井地域合併協議会」では、現在までに6回の協議会を開催し、合併の方式や新市の名称をはじめ32の協議項目などについて、協議を行ってまいりました。

このたび、合併協議の内容について、パネルディスカッションなどを通じて住民の皆様にお知らせし、合併について理解を深めていただくことを目的に10月16日（土）相模原南市民ホール、20日（水）杜のホールはしもと、23日（土）神奈川県立相模湖交流センターにおいて、市町村合併シンポジウムを開催いたしました。

シンポジウムにおいては、当協議会アドバイザーから「なぜ、いま市町村合併なのか」と題して基調講演が行われ、引き続き合併協議会経過報告、まちづくりの将来ビジョン（素案）の報告やパネルディスカッションが行われました。主な内容は次のとおりです。



10月16日 相模原南市民ホールにて

### 基調講演10月23日

#### 東海大学政治経済学部 吉田民雄教授

少子高齢化など、私たちの暮らしを取り巻く状況が大きく変化している中で、新世紀における安全・安心な暮らしを実現していくための基盤づくりが求められている。自治体財政は一層厳しさを増すが、地域の多様な資源を生かして自己決定権を拡充していくことが、地方分権改革への対応であり、市町村合併はそのための手段である。

1市3町の合併が実現すれば、人口70万弱の都市が誕生する。都市の規模は大きくなるが、地方分権は市民の自己決定権の拡充をめざすものであるから、地域自治区の活用などにより、「自分たちの地域のことは自分たちで」という、市民自治の展開を行政と市民のパートナーシップにより進めることを考えてもよいのではないか。

### 基調講演10月16日・10月20日

#### 明治大学政治経済学部 牛山久仁彦助教授

少子高齢化の急激な進展や住民の生活圏の拡大、国・地方を通じた財政危機という状況の中で、自治体もその規模の見直しや財政危機の克服に自ら取り組まなければならない。そこで、自己決定と自己責任の原則のもとに地方分権改革を実効性のあるものとし、総合的な行政主体を創ることが求められる。その方法の一つとして市町村合併が考えられる。

自然と産業が共存する「複合都市」相模原の将来のまちづくりをどのように考えていくのが課題となる。すでに大規模な自治体である相模原市が津久井地域との合併を契機に都市内分権を考え、地方分権時代に相応しい自治体づくりを考えていく機運があるとしたら合併を前向きに検討すべきだと思う。合併協議の内容を踏まえ、損得勘定だけでなく、広い視野や観点から合併問題を考えていただければと思う。

## パネルディスカッション

(10月16日相模原南市民ホールにて)

パネルディスカッションでは、「合併で目指そう 新しいまちづくり」をテーマに、それぞれの意見交換が行われ、会場からの質問票に対する回答も行われました。その概要を掲載します。

コーディネーター  
牛山久仁彦  
明治大学政治経済学部助教授

パネリスト  
森田文恵  
NPO法人男女共同参画さがみ

はら副代表理事  
矢越孝裕  
まちづくりの将来ビジョン検討委員会委員長

小川勇夫  
相模原・津久井地域合併協議会会長

溝口正夫  
相模原・津久井地域合併協議会副会長

天野望  
相模原・津久井地域合併協議会副会長

各地域の持つ地域特性・資源（ポテンシャル）について

矢越 相模原市には橋本、相模原、相模大野という3つの拠点がある。また総合保健医療センターなどの機能の充実した施設が多い。城山町は市街地に接して里山の風景が残る。津久井町は広大かつ雄大な自然などが身近で触れ合える。相模湖町は神奈川県の水源地である相模湖があり都心から約1時間で自然とふれあえる。森田 相模原市と津久井地域では既に人的交流が始まっている。これから一緒に活動の輪が広がることが楽しみである。

小川 相模原市は、土地、労働力、そして津久井の水があったので、昭和29年の市制施行以降、内陸工業都市として急激に発展し、現在では中核市となった。

溝口 相模湖町は、水源地ということもあり、基幹産業などはないが、地域特性を生かした施策を進めている。

天野 津久井町は、人づくりをしようとして「水源文化都市つくい」ということで教育行政に力を入れてきた。

新市の目指す将来像について

森田 合併して交流が盛んになれば道路が必要である。合併すると橋本が中心となり男女共同参画の活動範囲が広がることを期待する。

矢越 交通渋滞を緩和する措置を講じていただきたい。行政は市民と対話し、お互い良い道を探ることが重要である。その中に男女共同参画を取り入れたい。

天野 水源地「津久井地域」と工業都市「相模原」が一体化し、新しい都市になれば県内での役割も重要になる。

溝口 自然と都市が調和する総合的な力を発揮できる市となり、住民が安心して生活できると確信する。

小川 相模原と津久井地域がお互いにあるものを補完することにより新しいまちづくりの可能性が広がる。

魅力あるまちづくりの実現のために必要なものは？

小川 効率的な行政運営や市民参加により地域に適した市民サービスを提供するため、都市内分権への努力をすることにより、地域の魅力、個性が輝く、彩りが豊かなまちづくりができると思う。

により、住民と協働し特色あるまちづくりができる。

天野 交通条件が整備されると交流も深まる。新市で行政サービスが充実することを期待する。

### 質疑応答

参加者に質問を記入、提出していただいた「質問票」を集約し、パネリストから回答いたしました。

Q、基地問題の解決が市民の安全上大切ではないか。

矢越 市民の安全を考えると基地はない方がよいと思う。国レベルで削減をして欲しいと考える。

Q、住民投票を実施すべきではないか。

小川 市政運営の大原則は、議会を中心とした間接民主主義制度である。今は、住民の皆さんに合併協議の説明をしている段階であり、時期を見てアンケート調査を行う考えである。住民投票には時間、費用がかかるため、別な方法で市民の意向を把握すべきだと思う。

天野 最終的な合併の決定権は議会にある。合併協議も継続しているため、議会も住民投票をする考えは今のところない。

Q、津久井郡4町での合併の検討は。

天野 津久井郡4町の合併では、安全性、安心性、快適性、利便性を向上させる経済的生産基盤を確保することはできないので、無理だと判断している。

Q、城山町長が不参加だがどう考えるか。

溝口 残念に思う。シンポジウムに出席し自分の意見を述べ、住民に聞いてもらった方がよいと思う。

(敬称略)